



一年
 筆順 一 二 三
 オン サン
 フン み・み 二つ・み 二つ

成り立ち



「みつつ」のぼうで、「みつつ」といういみをあらわした字です。ローマ字の「III」もそうです。アラビアすう字もそうですが、三つのぼうをつないだので「III」が「III」になりました。

使い方

▽「三角」とは、「角」が三つあるもの」といういみのことばです。

熟語例

▽三日月(三日めのほそい月)
 ▽三原色(「原色」はすべての色のもとになる色。あか、あお、きいろの三つ)
 ▽三國一(日本、中国、インド三つの国のなかで一ぱん)ということばで、「世界一」のむかしのいいかたです。(例三國一のはなよめ)
 ▽仏の顔も三度。▽三度目の正直。▽三つ子の魂百まで。



一年
 筆順 一 二 三
 オン サン
 フン やま

成り立ち



「やま」のかたちをあらわした字で、「やま」といういみをあらわしたものです。また、「やま」のように「たかくつみかさなっているもの」のことにもつかいます。

「泰山は小さきつちくれを譲らず」「泰山北斗」とか、「山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し」など、「山」にかかわる古言は多い。
 サンは漢音で、呉音はセンである。呉音は「須弥山」「金剛山」「大山」などの固有名詞にわずかに使われているだけである。」

使い方

▽むかしは人にきらわれた「山」ですが、いまは夏は「夏山」、冬は「冬山」といわれて、一ねんじゅう、「登山」する人びとでにぎわっています。

熟語例

▽夏山(「青葉のしげる「夏の山」という意味のことばですが、「夏の登山」のいみにもつかわれます。)
 ▽冬山(「草木のかれた「冬の山」といういみのことばですが、「冬の登山」のいみにもつかわれます。)
 ▽登山(「山に登る」こと。「山登り」)
 ▽山地(山のおおい土地。また、「山のなかの土地」といういみにもつかいます。)
 ▽山頂(山の頂上。「頂」は「いただき」とよんで、「てっぺん」といういみの字です。)
 ▽山積(「山のように積もる」といういみのことばで)「ものがたかく積もる」こと。「山積み」ともいいます。)
 ▽深山(おおく深い山。「おく山」「み山」ということばもあります。)
 ▽山につまずかず、石につまずく(「しつばいははぢいさなことをあなどることからおこる」といういみ)